

日独関係 Germany-Japan relations

坂田 聖典

はじめに

日独関係といえど何が思い浮かぶだろうか？おそらく第二次世界大戦における同盟、戦後の西ドイツとの関係などであろう。しかし、当然両国の関係はもっと深いものである。研究報告の前に私の現地での体験を簡単に振り返りたいと思う。なぜならそれらの体験は私が日独関係を考えるにあたって大きな影響を与えたからである。

1 日目 (8/24)

飛行機でアムステルダム、ベルリンへと向かう。初めてのヨーロッパはやはり美しい街であった。

2 日目 (8/25)

ベルリンの様々な観光地を訪れた。ベルリンが観光地であるということは至る所にいるアジア系の人を見るとすぐにわかった。訪れる場所、見える建物はどれも新鮮だった。しかし今も残る東西の発展の差には、やはり寂しさを感じた。

3 日目 (8/26)

ベルリンから飛行機でミュンヘン、そこからバスでアウクスブルクへ。いよいよホストファミリーのニコライと対面。緊張しないだろうと思っていたがやはり緊張した。その後、友人と二人で暮らしているニコライの家に着くと二人で Xbox。初めての

Xbox がドイツになるとは思ってもいなかった。そして彼の実家で家族と最初で最後の夕食。しかし緊張で上手く話せなかったのがとても残念だった。

4 日目 (8/27)

アウクスブルクでのプログラムの始まり。まず訪れたのはディーゼル記念苑。尼崎・長浜とアウクスブルクを結ぶきっかけとなった場所。しかしこの時はそういったことはあまり考えなかった。次に訪れたのはフッグライ、世界最古の社会福祉集合住宅。ここでは日本語のパンフレットを目にすることができ、日本人がよく訪れるということが窺えた。そして市庁舎へ。ここで市長、両団長の話を聞き、芳名録に記帳したことで関係の深さというものを実感した。その後のシティーギャラリーは日本のショッピングセンターによく似ていた。

5 日目 (8/28)

図書館、大聖堂、市場を訪れた。特に大聖堂は日本では訪れたことがなかったので印象が強かった。その後の市民祭りでは市長・市民から大いに歓迎していただき、このことも私の考えを変えるきっかけとなった。市民祭りには他の団員のホストファミリーも来ており、夜に行った BBQ と合わせて、親しくなる良いきっかけとなった。

6 日目(8/29)

アウクスブルクから 100km 離れたノイシュヴァンシュタイン城へ。ここではもちろん城自体にも驚いたのだが、それよりも日本人の多さに驚いた。日本語が通じる店もあり、日本の観光客がよく訪れているということがわかった。

7 日目(8/30)

尼崎・長浜とアウクスブルクを結ぶきっかけとなった MAN・ディーゼル社を見学。しかし超文系人間である私には機械の専門知識が全くわからず、ただ「すごい」という感想しか出なかった。動物園ではアシカの檻(?)の中に入るといふ貴重な体験をした。ドイツの動物園には日本で目にする鉄の檻はあまりなかった。植物園の日本庭園は日本文化を知ろうとする職員のおかげで素晴らしいものであった。夜は全員でボウリング。スポーツに国境がないことを、身をもって知ると同時に素晴らしい 1 日となった。

8 日目(8/31)

青年使節団としてアウクスブルクで活動する最後の日。幼稚園、大学と教育現場を訪れた。アウクスブルク大学は大阪大学と協定を結んでいるが、物理学が有名な大学なので文学部の自分は留学できるかは怪しい。その後はプッペンキステ、モーツァルトハウスと文化の場へ。プッペンキステでは舞台の裏側を見ることができ、人形も触らせていただいた。夜はフェアウェルパーティ。演目は歌とピンゴ。歌、ピンゴともぶっつけ本番の割には、何とかあった。特にピンゴは盛り上がった。



フェアウェルパーティにて

9 日目(9/1)

ホストファミリーとの 1 日。電車でミュンヘンへ。ミュンヘンはドイツで最も高級な街と聞かされたが実際にそうであった。博物館はとても大きく、3 時間でも全てをじっくり見ることはできなかった。夜は自宅で他の団員とホストファミリーが集まった後にディスコ。貴重な体験をすることができた。

10 日目(9/2), 11 日目(9/3)

泣きながらホストファミリーと別れ、忘れることのできない思い出を胸に飛行機に乗り込む。約 12 時間かけて日本に。

こういった体験は、私が日独関係を考える上で良くも悪くも影響を与えている。私の研究は個人的な感情に基づいているかもしれないが、それは青年使節団としての経験によるものなのである。

・日独関係の歴史

日本の開国とドイツ

1639年より鎖国政策をとり続けていた江戸幕府であったが、1854年の日米和親条約締結により、日本は開国を果たす。そのような情勢の下で、当時のプロイセンも日本との国交樹立に動き出す。プロイセンは1860年にフリードリヒ・アルブレヒト・ツー・オイレンブルク伯爵を派遣して、1861年1月24日に日普修好通商条約を成立させた。この条約は安政の五カ国条約同様に不平等条約であった。こうして、プロイセンと日本の間に正式に国交が結ばれた。

明治維新とドイツ

大政奉還により新政府が誕生した日本は、ドイツを手本とした制度を取り入れた。伊藤博文は大日本帝国憲法作成にあたりベルリン大学のグナイストに師事した。また、森鷗外も軍医としてドイツに派遣され衛生学を学ぶ傍ら、その体験をもとに『舞姫』を執筆した。このように明治維新の時代の日独関係はドイツが日本の手本となるというものであった。

三国干渉と第一次世界大戦

日清戦争後、ドイツはロシア、フランスとともに三国干渉を行った。このため、日本の対独感情が悪化した。第一次世界大戦では、日本は日英同盟に基づきドイツを攻撃し、中国におけるドイツの権益を奪取した。

第二次世界大戦

第一次世界大戦では戦った日本とドイツであるが、第二次世界大戦では日独防共協

定や日独伊三国同盟などの同盟を結ぶなど、枢軸国側として強い結びつきがあった。しかし、この時も日本とドイツの関係は必ずしもお互いのためを思ったものではなく、自国の利益のためであった。

戦後

戦後はともに敗戦国であり急激な経済成長を遂げた国として、西ドイツとは密接な関係が築かれ、東西統一後も日本とドイツは密接な関係を維持している。現在ドイツに在留している日本人は35,725人、日本に在留しているドイツ人は5,971人である。両国の友好協会としては日独協会、独日協会が存在する。その他、青年使節団研修の講師としてお越しくくださったペーター・リンクさんの主催するドイツリンク等の市民レベルの交流協会等が存在する。

各分野での関係

経済・産業

GDP世界第3位の日本と第4位のドイツは、経済面において密接な結びつきがある。ドイツは日本にとって欧州最大の貿易相手国である。また、現在日本はドイツにとって、中国に次ぐアジア第2位の貿易相手国である。ベルリンでは、SONYやSHARPなど日本企業の建物が多く見られた。また、両国の会社間での結びつきもあり、自分が訪れたMAN・ディーゼル社も日本の企業と協定を結んでいる。最も関係がわかりやすい産業は自動車産業である。日本ではドイツ車であるメルセデス・ベンツ、BMW、アウディ、フォルクスワーゲンをよく見かける。一方ドイツでもNISSANやTOYOTAの店があった。ちなみに、私がホームステ

イした家族の自動車は HONDA であった。



ベルリンの SONY ビル内部

姉妹都市

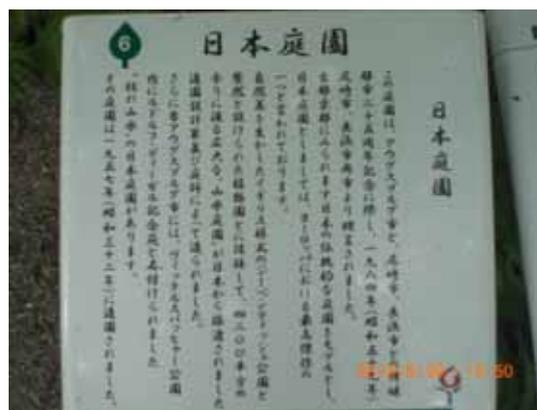
日本とドイツの間には現在 53 の姉妹都市が存在している。尼崎・長浜とアウクスブルクのほかに、青年使節団交流のような若者の派遣・受入事業を行っている姉妹都市は 12 都市あり、その内容も留学等様々である。残りの姉妹都市でも様々な交流が行われている。

スポーツ・文化

日本とドイツが最も関わっているスポーツといえば、やはりサッカーであろう。現在ドイツのクラブに所属している日本人選手は内田篤人選手、長谷部誠選手をはじめとして約 35 人おり、ヨーロッパ各国で最も日本人選手が多い。そのなかでも細貝萌選手は、昨年まで FC アウクスブルクに所属しており、アウクスブルク市青年使節団員も細貝選手にインタビューをしていた。しかし、日本のクラブに所属しているドイツ人選手は現在いない。

ドイツでは日本の伝統文化だけでなく、サブカルチャーも人気だった。また、アウクスブルクの市立植物園には日本庭園が

あったが、それは日本人の監修のもとで造られた本格的な日本庭園だった。残念ながらすべてが日本のものではないが、職員の方がおっしゃった「西洋の日本庭園にならないように心がけている」という言葉がとても印象に残っている。この言葉は、本当に日本人の考えを理解していないとなかなか出てこないと思う。日本庭園を訪れる方もおり、ドイツでも日本の伝統文化が受け入れられているということを感じた。また、この日本庭園についても、尼崎市・長浜市との繋がりが有り、両国の関係性を感じることができた。休日にホストファミリーと訪れたミュンヘンにも日本建築があった。



日本庭園内にある説明板

日本のサブカルチャーも人気で、私のホストファミリーのニコライはとても日本の漫画、映画、アニメに詳しかった。彼は僕の知らない映画やアニメを紹介してくれた。同時に、私もドイツで販売されていた自分の好きな漫画を彼に薦めることができた。また、ほかの団員のホストファミリーのなかにも日本の漫画について知っている者もおり、書店では日本の漫画もたくさん置いてあった。しかし、書店では日本の旅行ガイドブックが少なかったということにも気

がついた。実際、訪日外国人全体に占めるドイツ人の割合は 0.012%と非常に低い。(JNTO 推計値 2012.1~2012.7)ドイツ人にとって日本は、それほど観光地としては意識されていないのかもしれない。

おわりに

日本とドイツの関係は、学校で勉強した日独伊三国同盟等の戦争における関係しか知らなかったが、この研修を機に調べてみると、実はその悪いイメージを打ち消すくらい良い結び付きもあるということを知った。ホストファミリー達と楽しく過ごすことができたのは、二国間の関係が良好であるという事実も少なからず影響していると思う。二国の素晴らしい関係が未来永劫続いて行くことを願い、研究報告とさせていただきます。

【参考資料】

外務省ホームページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

財団法人自治体国際化協会 (CLAIR/クレア) ホームページ

<http://www.clair.or.jp/index.html>

日本政府観光局 (JNTO) ホームページ

<http://www.jnto.go.jp/jpn/>

Wikipedia 日独関係

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E7%8B%AC%E9%96%A2%E4%BF%82>

Wikipedia 日本国外のリーグに所属する日本人サッカー選手一覧

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%9B%BD%E5%A4%96%E3%81%AE%E3%83%AA%E3%83%BC>

[%E3%82%B0%E3%81%AB%E6%89%80%E5%B1%9E%E3%81%99%E3%82%8B%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BA%BA%E3%82%B5%E3%83%83%E3%82%AB%E3%83%BC%E9%81%B8%E6%89%8B%E4%B8%80%E8%A6%A7](#)